

## indigo la End における時間を表す語の役割について

吉井 瞳

私は音楽を聴くことを趣味の一つとしている。その中で一番好きなアーティストが indigo la End である。このアーティストの曲をよく聞いていく中で、曲の歌詞の中に「時間に関する語」が多用されていることに気づいた。この時間に関する語が、indigo la End の楽曲を聴いたときに聴者がさまざまな感情を抱く要因になっているのではないかと考え、本研究では、indigo la End の楽曲の歌詞を、ケンダル・ウォルトンのごっこ遊び論を用いて分析することによって、時間に関する語の役割を明らかにすることを目的とした。

先行研究では、楽曲の歌詞を、哲学的に分析しているものも若干見受けられた。しかし先行研究の多くは、データマイニングやクラスター分析といった量的分析を行ったものであった。また、ケンダル・ウォルトンの理論を用いた特定のアーティストの歌詞分析や、indigo la End の楽曲の歌詞分析を行っている先行研究は見受けられなかった。以上のことから、特定のアーティストに絞って楽曲の歌詞分析を行うことで、そのアーティストの用いる語彙の特徴を捉えることができるのではないかと考えた。

indigo la End は 2010 年 2 月に川谷絵音を中心に結成された音楽バンドである。何度かメンバーの編成が変わっているが、2014 年 8 月に後鳥亮介、2015 年に佐藤栄太郎が加入し現在の体制となっている。本研究では、indigo la End OfficialSite の release 欄に掲載されている全楽曲から重複する楽曲を除いた 91 曲のうち、時間に関する語が入っている 53 曲の中から、歌詞解釈サイトの中で特に掲載楽曲の多い OTOKAKE、脳 MUSIC 脳 LIFE の 2 サイトに掲載されている 23 曲を対象とし、歌詞分析を行った。

分析の結果、楽曲の歌詞内に登場する時間に関する語で多かったものとして、「朝」が 2 曲、「夜」が 20 曲、「今日」が 7 曲、「明日」が 6 曲、「春」が 2 曲、「夏」が 2 曲、「冬」が 3 曲あることが分かった。「夜」という時間を表す語が最も多いことから、indigo la End の楽曲は、現実世界では日の暮れた後の暗いという意味の「夜」を想像のオブジェクトとして用いることで、楽曲の歌詞内ではごっこ遊びとして恋愛での別れ、終わりといった意味を主とした想像をより活発にしていることが明らかになった。そして、そのごっこ遊びのイメージを indigo la End の象徴としているのではないかと考察した。それらの楽曲のうち、多くの楽曲の場合、それぞれの楽曲のごっこ遊びに参加するためには、時間を表す語が、字義通りの意味だけではなく、恋愛の始まり、途中、終わりなど、恋愛のストーリーに関する意味も持ち合わせているということが明らかになった。つまり、indigo la End の楽曲の歌詞をごっこ遊びの表象体とすると、時間に関する語という小道具を想像のオブジェクトとして用いることで、恋愛の起承転結を表しており、それが虚構的真理を成り立たせているということが明らかになった。

(指導教員 横山幹子)